Osaka University Knowledge Archive

Title	吉村勝露生著「人間的な基督」翻刻・註・解説
Author(s)	林田, 雅至
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/85551
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

人　間　的　な　基　督

吉　村　勝　露　生

人　物

基　督
ユ　ダ
弟子達
祭司の長，殿司(みやもり)　外に男女數名

時　代

西暦紀元前

第　一　場

ゲツセマネの園[1]

小廣き草原，草原の圍には常緑樹が梢密に植ゑてゐる．その間に，遠山が，傾きつゝある太陽の光を受けて，輪郭をハッキリ描いてゐる．右の方に，麓に下る小道が一條，曲がりなりになってゐる．

弟子供はキリストと祈つてゐたが，飢と疲の爲に，祈禱の姿のまま，居眠つてゐる．基督は獨り，弟子達と離れて，左の方で踞つて瞬時(しばらく)にして立上り，弟子の方に歩んで來る．

基督　オイオイ！どうしたのだ！あれ程，サタンの張つた迷惑(まよひ)に，掛からない様に，一生懸命神に祈るやうに吩咐(いいつ)けたのに・・・・・・・・，氣持良ささうに，今迄の迫害苦痛飢餓等の受難をも，忘れた様に，安らかなイビキをかいてゐるな．

(云ひつゝ，弟子共の寝顔を見る.)

・・・・・・・・．俺の奉ずる神はその寝顔だ．無爲の境に忘我の域に彷徨する心の持主だ．起すのも可哀想だ．そのまま寝させてやらう．

ァヽ．何と静かな日だらう．あの森の木に訪(おとな)ふ風の音が聞こえる様だ．あれは草叢から出た虫だな．又白い花，黄紅色々な花，サウサウあの花を摘んで花輪にして，母さんに上げた事があつたつけ．虫を捕へて喧嘩させたり，虫の取合で，友達と組打迄した事もあつた．

あの日の友達は今どうしてゐるだらう？　矢張り，ベツレヘムで，彼の野原で遊んでゐるだらうか？　俺の事を思い出してゐるだらうか・・・・．生まれた土地に抱れて，生きて行く人は幸福だ．羨しいな！　夫に較べて，俺と云ふ者は，生れる時から，惠まれなかつた．社會の人々と伍する様に許されなかつた．馬鹿な博士共は―狸か狐に騙かされて―東の國から，ワザワザ來て，俺を―大工の子を，神の子と云つた．但だ，星が俺の産屋(うぶや)の上に在つたからださうな．お蔭で，イヂプト三界迄，逃げ，夫からと云ふものは，いつも追はれて逃げる様な生活をしてゐる．木陰で，夜露を凌いだ事もあつた．草藪の中に，モグリ込んで，野獣を避けた事もあった．俺の心は絶えず何者かが脅かしてゐる．パリサイ人[2]の獰猛な，血に渇へた，狼の様な奴の影法師が，俺を取り巻いてゐる・・・・・・・・．

今日は，總べての桎梏から逃れた時，囚人が輕い，浮々した氣持で，足を踏み出し

たり，四股を踏んだりする様な普通の人が味ふ事の出來ない，自由の身を感謝する様な氣分がする・・・・・・・・．段々暮れかゝるな．山々が，身體一パイに光を浴びてゐる．金色の彩雲！ 眞赤な太陽！ ァヽ，愉快だ！

愉快さうに大股で往來する．鳥が二三羽羽バタキして過ぐ．此静けさに對して，夫は脅威的な騒音だつた．

畜生!!

衝動的に石を拾つて投げようとす．が氣がつき，弟子達が目を醒まさないので，ホツとし，力なくグツタリ，坐りこんで兩手で頭をかゝへる．

情ない！ 俺は，俺はさうまで自己の心，意識作用を打潰ぶさねばならないのか．俺は，人間的な慾望を，「神の子」の文字と帳消にした．本然の性を，意識しながら破壊した．こんな―さうだ，俺は變體的とも云ふ―例外的な性を偽造した．此んな虚飾した奴を，俺はイツハリ，世の人々に美しく，純なものとして，見せるために，神の攝理だとか，我父の訓と云つた．俺は若しも，その動機を聞かされたら，無意識だと云ひたい・・・・・・・・．

あいつ奴！ バプテイスマのヨハネの奴！ 俺がこんな，非人間的な生活の緒を聞いたのも，阿奴の口車に乗つたからだ．ヨルダン河で，群集心理に動されて，水を浴びた，バプテイズマとやらをやつたら，阿奴，悪賢しくも，「私は貴方の靴の紐を解く事も出來ません」と，煽(おだ)てゝ口上手に，俺にその役目を譲つた．其時俺も馬鹿だつた．有頂天になつて，神様見たいな事をやり，自己の凡人たる事，無能なる事も忘れ，自己の眞實な心が，蟲ぶんで，竟には他人と反封の事を云ひ，云ひ負かすためには，心にも無い事を云ひ，變體心理の人間になつて，如此く，喪家(そうか)の狗[3]の様に，歩いてしまふとは知らなかつた．そして俺の心は世に反抗した．彼等が迫害すれば，する程，俺の心はヒネクレた．すべて，彼等の行動の裏に出た．俺さへ知らぬ，神をも無條件に肯定した．學者，祭司の長共が躍氣になる程，心に快哉(かいさい)をさけんだ．人をへこましたりするのが好きになつた．排他的は病的になつた．財産家が成佛を頼んで來た．彼奴は，道徳的に，人格的に優越してゐた．そこで俺は彼奴も，普通の人間，無産者に下げ優越感を味ふため，汝の有する財を捨てよと，云つたら蒼白うなつて逃げた．俺は，「富者の天國に入るは駱駝の針の穴をヌケルより尚難し」[4]と，云うて溜飲を下げた．又かう云ふ事もあつたつけ，町で姦通した女を，人々が石で打殺さうとした．俺の心は擡頭した．「お前等，罪無き者，先ず彼を打つべし」と，やつたらコソコソ逃げやがつた．俺は見てはいけない者を見る様に，弱々しいが，アダツポイその女を見た．俺の目は淫邪の光で輝いてゐた筈．俺の心は狂つた．人並に女を戀うた．が女は俺を人間以上に見た．木石の金佛位に見た．すべて善の方面を見，神と云ふヴェイルで包んで，人間と云ふ者を見なかつた．彼女は戀情を捧げる代りに尊敬の情を捧げた．その時，俺は何となく悲しみの奈落に突落された氣がした．女と云うと(目は活々して來る，何物かを戀ふ様に)あのマグダレナのマリヤ[5]が戀しい．夏のカンカンと照る日，喉が渇いて，井戸に水を飲みに行くと，女は水を掬つてゐた．スレタ所もあつたが，處女のオボコさもあつた．弟子一人も居ない．誰一人として俺を，救世主と云はれる俺を知つてゐる者は居なかつた．俺はビクビクしながら，水をお呉と云つた．女は甕に手をかけた，俺

は夢中で眞の俺の姿で手でくんで呉れと云つた．その時，もう相手の顔はノッペラボーに見え，飲んだかどうしたのか，わからない程だつた．其時の狼狽さ―その時の氣持！ 恐らくは世の人の戀と云う者だろう――．彼女は娼婦だと云つた．が俺には初戀の人だ．潔白とか，汚穢(おえ)は問題ではない．其時初めて説教―眞の説教をした．兄が妹を諭すやうに．彼女の目が俺を見つめた時，彼女は神々しかつた．邪念が一掃されるやうだつた．だがあくまでも俺は惠まれなかつた．ユダの奴が來て俺の心を讀んでしまつた．阿奴は恐ろしい奴だ．必ず俺を裏切る．俺を賣つて，マリヤを物にする筈．阿奴もマリヤに戀をしてゐるから‥‥‥‥．負けてたまるか！ 俺のマリヤだ！ 糞 !!! ユダの奴！ どうにかしてやるぞ！

山道からユダ先頭に立ち祭司殿司共と話しながら來る．彼等はエモノを持つてゐる．基督，ユダの聲を聞き，ハネカヘサレる様に飛上がり身を地にスクマせ，ひそかに聞く．

何 !! 色と戀の二道！ マリヤと銀子！ 畜性！ とうとう俺を打負かしたな‥‥‥‥．なあに，腕づくなら五分々々だ．

あのマリヤ，可愛いマリヤを誰に‥‥‥‥．ヨシ! 死ぬまでだ．

沈黙梢冷静になる．

が，俺はこんな事で，彼女を得ても‥‥‥‥．俺の今迄の努力は水泡なのだ．俺は世人に何と教えた．「己の敵を愛せよ」[6]と云うたではないか．女一人！ 私の情だ．俺は名が惜しい．救世主の名が捨てたくない．俺はヨリ大なる愛の世界に生きねばならぬ．些細な感情を捨てねばならぬ．宇宙の人を抱擁する博愛の創造主たらねばならぬ．博愛だ！

ユダ，イエスに來り，接吻せんとす．人聲に，弟子共醒め基督を防衛せんとす．

基督　ユダ！ お前は接吻を合図に俺を，神の子である俺を賣らうとするのか？

ユダ‥‥‥‥．(たぢろき，キリストの顔を見て俯く)

弟子達　主よ！ 刀を抜いて，サタンを追ひ放つて宜しうございますか？

弟子の一人，躍出し祭司の長の僕を傷く．

基督　待て！ 宥してやれ．(祭司殿守の前に進む.)

お前等は刀や棒を持つて，丁度強盗に向かふかの様に來てゐる．宛然(さながら)，俺が超人的な膂力(りょりょく)を有してゐるかの様に‥‥．がお前等は，殿堂に居る時，指一本すら，さそうともしなかつたのにね‥‥‥‥．

四方は段々と暗くなり，トップリ暮れる．

スッカリ暮れたね‥‥‥‥．眞暗だ．誰やらサッパリわからん．善も悪も，明も暗も歸す所は此暗の色だ．人間も毎日此暗のトバリに向かつてゐるのだ．

俺も今度は，人間並に，此暗の色に包まれて，二度と明るい色は見られん様な氣がする．到々、人間的な，死に對する恐怖が勃つたな．アハヽヽヽ．さあ行かう．

危い! 皆氣をつけろ．道が悪いからね‥‥‥‥．

キリスト下る．祭司，弟子達，無言で後に従ふ．　――幕――

第　二　場

コルゴダの刑場

中央に，丘陵が遠く小さく踞つてゐる．小廣き草原，所々地膚が露はれて，湿つてゐる．右手に，

殿に通ずる道あり．道に沿うて，多くの女共，三々五々と，或は立ち，或は坐つて，話をしてゐる．時，正午近い．

女一　ほんとにさ！ 大それた事を仕出かしたもんだよ．罰當り奴等が．何んぼ何だつてあんなバラバ(7)見たいな大惡人――一寸切，五分切して食つても，厭(にく)きん程にくたらしい狼の野郎――を無罪にしてさ，生佛様のエス様を十字架につけるなんて・・・・・・・・．畜生阿奴等皆，くたばつてしまつた方が良いんだよ．男の癖に，ゑらさうに口鬚もつけてさ，夫位の事がわからん事があるもんかね．一丁字(いっていじ)も知らん，妾なんかでも是非善惡を見分けるのは朝飯前だよ．今に見るがいゝ．神罰を受けるから・・・・・・・・．

女二　さうだよ，お前さん．犬畜生におとる奴等だ．どれ程エス様にお惠みを受けたかわかりやしないんだよ．夫なのに，今度の始末は・・・・・・・・．實際，犬も三日飼へば恩を忘れんと云うのに．沒義道の野郎共は地獄に落つこちたが良いよ．

女三　可哀想に，あの神の子様も，もう今日限りで，此世ではお目にかゝれん．なあ，皆の衆や．エス様は，何時も，さうおつしやつた．汝の敵を愛せよ．皆仲良く暮らせ．四海兄弟(8)(しかいけいてい)とね．又どんな貧しい人でも，其日其日に追はれる私達でも，悔改めて，惡い事をしなければ，永遠の(かぎりなき)命を受ける――．チト，難しいかも知れんが，要するに，天國と云ふ，神様のお國でいつまでも生きる事が出來るさうだよ．人間は心が大切だよ・・・・・・・・．エス様は優しいお方だよ．私見たいな，ヨボヨボした者にも，もつたい事だよ，お自分で祀つて下さるし，優しい言葉を下さる．私エス様の事を思うと，有難いやら・・・・・・・・尊いやら・・・・・・・・嬉し泣をしますよ．(シャクリあげる)

女一，二，引入られて泣く．女一，基督を見る．

女一　あれあれ．皆さん．エス様がお出でになつた．さあ，お迎へしませう．

シモン，十字架をかつぐ．基督，平素の様に來る．路傍に泣き悲しむ女共を見て，奇異を感ず．

基督　もしもし．どうなすつた？ 悲しい事や，心に心配ある人，死を恐れる人はお出でなさい．亢憤してはいけません．静かに，貴女達自身や，お家族のために祈りなさい．祈にまさる何物もありません．天の父は必ずお聴きになるでせう．(云ひつゝ歩いて行く)

女共は，優しい言葉に一層，シヤクリ上げて泣く．男達，エスの後姿を見る．

男一　どうだい！ 野郎のニヤニヤした様子と云ひ，糞度胸の良い事は．十字架はてんで眼中に置いてゐないぢやないか．死刑なんて糞食へで問題にしてやいないんだ．

男二　知らぬが佛とは奴さんの事だ．一時間もしたら，三尺高い所でお陀佛とくるんだから面白ぇや．夫にさ，悲しい者，心配ある者までは良いさ，死を恐れるとはどうだい！ 虫の知らせかな．死を恐れない奴があるもんかい．

男三　さうださうだ．俺なんか，お役人に一寸にらまれても，ゾットする．一度でも，戯談で死刑にしてやると，云はれて見ねぇ．たまげて死ぬかも知れねぇ．夫に阿奴！ 殿守様方の宣告なんか，屁とも思はん．豪氣ぢゃ無ぇか．一體阿奴は，馬鹿か，白痴かも知れねぇよ．

男一　だが阿奴は薄気味惡い野郎だよ．惡魔の親玉かも知れない．氣狂をなほしたり，中風を治したり・・・・・・・・．

男三　夫にパンの四つで三千人も食べさせて，残つたと云ふぢやねぇか．

男二　あれや，二人位食つて，他の野郎共は見てゐたとはちがうかい．

男一　何にしても，變な奴さ．

或地點に到る. 殿守達は互に目配せする. 一同の顔は決意の情に漲(みなぎ)り, 殺氣は濃くなる。急に飛びつく. 十數分の争の後, エス二三間離れて立つ.

基督　何をなさるんです！ 初めは戯談と思つてゐたのに・・・・・・・・. ご覧ん！ 此衣の裳や, 袖はボロボロではありませんか. 見つとも無いぢやありませんか. (静かに衣を正しくし, 平静な態度をとらうと努める.)

どうしたんです. だしぬけに――喉を締めたり, 腕をねぢたり, 呼吸も出來ん位, 人を苦しめて・・・・・・・・. 宮に仕へる人にも似つかぬ, 追剥同様な事を白晝やるなんて. 以後お謹しみなさい. が, 過(あやまち)は誰でもあるのです. 皆さんの・・・・・・・・

(急に何物かゞ頭にヒラメく. 相手を見て, ハットし, 恐怖の状顔を襲ふ.)

恐ろしい眼だ！ 瞋恚(しんい)の焔(ほのお)が燃えてゐる！ 憎惡の迸(たぎ)つた眼光！ ヂリヂリと胸に鋸をあてられる様だ. ァッ! 一, 二, 三！有る, 有るォッ! 俺の周圍を取卷いたな・・・・・・・・.

沈默

俺をどうしやうと云うんだい. 俺を知らんか？ 神の子を知らんか？ 奇蹟を行つた俺を見違つたのか？ 力を見たいか？ 神の力を疑うのか？ 歸れ歸れ！ あつちに行け！

殿守尚ヂリヂリ肉薄す.

ねぇ諸君！戯談も此位で止して呉れよ. ほんとに. 俺見たいな臆病な者には, 残酷すぎる脅しだよ. その様な目付きをして下れるな. 頼む！ 呼吸も出來ん位壓(あつ)せられる様だよ. ァッ! お前等の目は瞋恚(しんい)や, 憎惡の焔(ほのお)は消えた. その代りおう, おう恐しい! 殺・・・・殺氣が漲(みなぎ)つてゐる. やる氣か？ 俺を! 俺を殺す氣なのか？

貴様達はサタンの手足となつたな. お前達は自己を失つてゐる. 認識力が麻痺してゐる. 俺は！ 俺はもう見る事は出來ん！恐しい！ 駄目だ! 駄目だ!

バッタリ倒れる. 殿守達得たりとおどりかゝり, 衣をうばひ, 棘の冠をかぶせ, 紫の袍を着せる. しばらくして, エス, 氣がつく.

基督　・・・・・・・・矢張り・・・・・・・・. (静かに起きる)　痛！ 棘の冠か！ァハヽヽヽ. (淋しく笑ふ) 紫の袍は, チヨツト派手だな, が新しい衣はさっぱりして, 氣持が良いもんだ. 何だか他人になつた様な何かしらん懐つかしい氣持がする.子供が正月着の衣を抱いて寝る時の氣持が又味はられる. 愛着が感ぜらる.

フト十字架を立てる音に氣がつく.

あの音だな！ 俺の死の行進曲だな. 段々死の三番叟[9]が始まるらしい. だが, 俺自身が死ぬとは思はれぬ. 第三者の位置に立つてゐる. 成可くならさうありたいもんだ. 死にたくはない. 何故と云う事はない. 死にたくないだらう. 一體, 死とは何だ. 今迄死と云う事は, 頭に爪ほども浮ばなかつた. 又その必要もなかつた. が皮肉だ. 死を救ふてやる人が死ぬ. そして救ふべき人を持たぬ. 人々は俺を求めた. 俺は誰を求めやうか死ぬ―死, 夫は生きる, 生と同じではないか. 又人生の目的だ. 人は生れる, 夫が死の初段階, スタートでは無いか？死ぬために生れる. 俺が死ぬ. 不思議もない. 當然すぎる當然だ. が, ミミズは首が切れても身體が二等分, ズタズタになつても生きてゐる. イヽヤ, 生き様と努めてゐる. 生に嚙り, どうかして,

生存を續かそうと一生懸命になつてゐる．又人間の断末魔の，口惜しさうに，しがみついても生きたいやうに食いしばつた口，カット見開いたまゝの目，何物かを取らう，攫(さら)ふと虚空を――取っても，攫んでも無駄な空間を根氣よく，屁古垂れず，攫ふとあせつたらしい手 ！ 苦痛の最大限を盡(つく)した顔の筋肉のツリ具合・・・・・・・・．

沈默

手の甲がザラザラした．毛が立つて來た．冷水を浴びた様だ．―――逃げたい！ どうかして奴等を殺してでも逃げたい．イヽヤ，生きて生きぬくんだ．殺されるなんて・・・・・・・・．

隙を伺ひ逃げやうとす．が捕へられて刑場へ引ぱられる．

基督　残念だ ！ 殺す氣か ！ 俺にあの様な苦痛をなめさせるのか ！ 俺は生きたい．誰か・・・・・・・・誰か，俺を助ける奴は居ないのか・・・・・・・・．

弱虫 ！ 恩知らず奴 ！ 卑怯者 ！ 苦しい ！ 生きたい・・・・・・・・．

やがて刑場に姿は消える．女共，十字をきて默祈す．

男一　ァハヽヽヽ．良いざまだ ！ 普通人より一層人間味があるぢやないか．

男二　もがいてゐるよ．エヘヽヽヽ．ユダヤの王様とさ．

男一　ユダヤの王様かね，栄光彼にあれ．ァハヽヽヽ．

男三　イヒヽヽヽ．ユダヤの王様 ！ 萬歳 ！ イヒヽヽヽ．

基督のウメク聲，物狂しき笑聲，人々のスゝリ泣の中に

幕．

註：

(1)ゲッセマネの園(ゲッセマネの祈り)：

下記 URL において，西洋絵画の表現や現地写真を参照されたい：

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B2%E3%83%84%E3%82%BB%E3%83%9E%E3%83%8D%E3%81%AE%E7%A5%88%E3%82%8A

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B2%E3%83%83%E3%82%BB%E3%83%9E%E3%83%8D

(2) パリサイ人(ファリサイ派)：

https://kotobank.jp/word/%E3%83%91%E3%83%AA%E3%82%B5%E3%82%A4%E6%B4%BE-116907

(3) 喪家(そうか)の狗:

http://kotowaza-allguide.com/so/soukkanoinu.html

https://dictionary.goo.ne.jp/leaf/idiom/%E5%96%AA%E5%AE%B6%E4%B9%8B%E7%8B%97/m0u/

(4)「富者の天國に入るは駱駝の針の穴をヌケルより尚難し」：

http://adonaiquovadis.hatenablog.com/entry/2016/04/10/015305

(5) マグダラのマリア：

https://1000ya.isis.ne.jp/1295.html

(6)「己の敵を愛せよ」(「汝の敵を愛せよ」)：

https://kotobank.jp/word/%E6%B1%9D%E3%81%AE%E6%95%B5%E3%82%92%E6%84%9B

%E3%81%9B%E3%82%88-590507

(7) バラバ:
https://kotobank.jp/word/%E3%83%90%E3%83%A9%E3%83%90-116705

(8) 四海兄弟(しかいけいてい):
https://kotobank.jp/word/%E5%9B%9B%E6%B5%B7%E5%85%84%E5%BC%9F-517132

(9) 三番叟:
https://kotobank.jp/word/%E4%B8%89%E7%95%AA%E5%8F%9F-71322

解説:
大阪外国語学校校友会編『咲耶』第 6 号, 1927.12.15)pp.88-97. に所収.
作者吉村勝露生(沖縄第二中学出身)は当時支那語部で, 1928 年第四回卒業式で卒業する. 日中戦争直前, 反満抗日軍襲撃戦死殉職(1936):
吉村勝露生(満洲日日新聞社編『満洲建国烈士遺芳録』1942 年), pp. 225-232:
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1042940/117?tocOpened=1
「烈士之碑」(1938):
http://blog.livedoor.jp/tadaiken/archives/51800568.html (2007 年 11 月 13 日付け)
参考:https://ameblo.jp/ssasamamaru/entry-12043633804.html

なお, 吉村氏が卒業した 1928 年に刊行された第四回卒業記念寫真帖『あけぼの』が, 馬來語部卒業生, 高橋勇氏の遺族によって, 2013 年同窓会咲耶会事務局に寄贈されている. ある意味で, これが契機となったと言える.
また,「烈士の碑」に名を連ねる中川勝氏(高知土佐中学出身)も同年蒙古語部卒で, 吉村氏に先立って 1933 年満洲龍江縣参事官職にあって 26 歳の若さで殉職している. 痛ましいという他ない.
中川勝(満洲日日新聞社編『満洲建国烈士遺芳録』1942 年), pp. 267-274:
http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1042940

彼が戦死した 1933 年 8 月 13 日というのは, 実は, 同年度支那語部による「中華及満洲修學旅行(1933 年 7 月 19 日神戸發～8 月 12 日満州國政府表敬訪問後, 13 日新京(現・長春)での現地解散)最終日にあたる. 国際連盟脱退年(3 月 27 日)でもあり, 歴史的に意味深長な年. 迫りくる戦火の前哨戦のさ中, 有事下の同調圧力に命運を分けた一日であった.
1933 年度大阪外国語學校支那語部・第十回卒業記念寫真帖『鵬翼』及び上記修學旅行寫真帖はともに卒業生故・奥平正二氏の遺族によって 2015 年咲耶会事務局に寄贈されている.
上記三冊の稀覯本豪華版は咲耶会に保存されているが, 貴重な文献であるために, 閲覧希望のあった場合は, デジタル印刷版を繙読いただくことになる.

最後に, 吉村氏が卒業と同時に 1928 年 6 月朝鮮総督府に赴任するが, 義祖父鈴木孫彦(1878-1930)が病を得て, 京城高等商業学校校長職(1921-28)の任務を全うせず, 同年 3 月山口県に戻る. 所謂ニアミスである. 聖書を通してにせよ, 西洋文化に造詣の深かったと思われる若き文筆家の卵(？)吉村氏と欧米に留学経験もあった孫彦が在任していれば, どこかで接触の機会もあった

と思われる.「たられば」は禁物かもしれぬが，体制の同調圧力に抗して生きた二人が本音で忌憚なく意見をぶつけ合う場面もあったのではないかと想像するだけで，興味は尽きない.
また，開校時に赴任された高名な中国語辞書学者井上翠(1875-1957)は，上記鈴木孫彦と山口高商(現・山口大経済学部)で同僚，1922 年一方は京城に，他方は新設大阪外国語學校中国語科に赴任した経緯がある.
さらに，同様に開学時赴任した，戦前英語教育学大家であった千葉良祐(1871-1958)も『あけぼの』にその肖像写真が掲載されるが， 研究社「英和大辞典」(1927-1980)第五版編纂主幹，恩師故・竹林滋(音声学者)(1926-2011)は薫陶を受けたのである:
https://sakuyakai.net/766/

参考:
拙稿「淺川伯教著「鈴木先生」(『京城日報』掲載，1930 年 5 月)による鈴木先生の審美眼の分析考」(『Co＊Design』大阪大学 CO デザインセンター，2019 年)，(5) pp. 65-75:
https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/71647/cod_05_065.pdf
https://sakuyakai.net/1926/